

様式第2号(第7条関係)

会議の開催結果

1 会議の名称	令和3年度第1回 さいたま市岩槻人形博物館運営委員会
2 会議の開催日時	令和3年7月27日(火曜日) 午後2時00分～午後4時00分
3 会議の開催場所	さいたま市にぎわい交流館いわつき 多目的室
4 出席者名	新井委員長、是澤委員、新委員、大越委員、 加藤委員、清水委員、抜井委員、三次委員、 森田委員
5 欠席者名	池田委員
6 議題及び公開又は非公開の別	(議題) (1) 令和3年度の事業実施状況及び事業計画について(報告) (2) 令和4年度の事業計画(案)について (公開又は非公開の別) 公開
7 非公開の理由	—
8 傍聴者の数	0名
9 審議した内容	(1) 令和4年度の事業計画(案)について
10 問合せ先	スポーツ文化局文化部 岩槻人形博物館 電話 048-749-0222 FAX 048-749-0225
11 その他	—

## 令和3年度第1回岩槻人形博物館運営委員会 会議録

- 1 日 時 令和3年7月27日(火) 午後2時～4時
- 2 場 所 にぎわい交流館いわつき 多目的室
- 3 出席者 (1) 委員(9名)(五十音順)  
新井久代委員長、新雅史委員、大越久子委員、加藤三郎委員、是澤博昭副委員長、清水一郎委員、抜井ゆかり委員、三次宣夫委員、森田 由美子委員  
(2) 事務局  
スポーツ文化局 大西局長、野口部長  
岩槻人形博物館 田中館長、川田副館長、今井主幹、菅原係長(学芸員)、平井主査(学芸員)  
※ 関連施設「にぎわい交流館いわつき」からオブザーバーとして出席  
加藤地域コーディネーター、大金運営統括マネジャー  
(3) 欠席者(1人)  
池田直人委員
- 4 公開・非公開の別 公開
- 5 傍聴人の数 0人
- 6 内 容  
(1) 開 会  
(2) 挨拶 スポーツ文化局長挨拶、館長挨拶  
(3) 議 事  
① 令和3年度の事業実施状況及び事業計画について(報告)  
② 令和4年度の事業計画(案)について(審議)  
(4) その他  
(5) 閉 会

### <議事内容要約>

#### 議事① 令和3年度の事業実施状況及び事業計画について

事務局から資料について報告

委員長 報告について、意見をお願いしたい。

委 員 館の目的として、専門的な人形文化の研究を深めるとともに、幅広い人たちに情報を発信し、人形ファンの底辺を広げていくことが、公立の施設としての使命だと考える。そのためには、あまり専門的になりすぎず、できるだけわかりやすい表現を用いて、多くの人たちに人形の魅力を伝えていくことが大切だと思う。

委 員 アンケートの結果を見ると、シニアの女性層がメインターゲットであることは、はっきりしており、SNSやWEBがマッチしているのか、細かいアンケートをとる必要性など、その層のリピーターを増やしていく施策が大切である。シニア層の知識欲を満たす体験ツアーや、ヨロ研カフェと連携した日帰りツアー等を旅行会社と企画してみても面

白いのではないか。

委員 岩槻の人形に携わる事業者からは、これまで岩槻が「人形のまち」であるという共通認識はあったが、博物館が開館して、人形文化を育てていく拠点ができるようになって良かったという声が多く聞かれるようになった。すでに地元の化粧品店等との連携を実施しているが、今後も、地域連携のハブ（結節点）となるべく、館からの企画展等の情報発信を積極的かつ早めに行ってほしい。

委員 博物館ができて一年半が経ち、人形に関わるアカデミックな部分は博物館が、にぎわいや商売に関わる部分は民間が担うという役割分担ができてきたと思う。民間側では、まち全体の集客を図るため、五節句の周知活動や人形の御朱印等の企画の検討を進めていく。

委員 展示室が狭いのが残念だが、にぎわい交流館いわつきと連携したイベント等を増やして、エリア内での滞留時間を増やしていけば良いと思う。

委員 65歳以上の女性は、時間に余裕がある人も多いので、平日でも来館してくれるが、30、40歳代の子供を持つ女性は、子供と来ることができる土、日曜日を中心となるので、子供と一緒に楽しめる企画を考えて、周知を図ってほしい。

委員 文化という視点からこの博物館の魅力は何かと考えると、人形文化に関する質・量ともに日本一の収蔵品を持っていることであり、その魅力を生かして、人形文化を伝えることにより、新たなファンを開拓し、裾野を広げてほしいと思う。そのためには、研究や展示の対象を、コアな専門家相手に限定してしまうのではなく、伝統工芸から現代芸術まで、さまざまな要素に広げていくことが大切だと思う。岩槻という地域でいえば、木目込人形について、もっと情報発信を行ったり、図録等に形として残しておくことが必要になってくるのではないか。

委員 キーワードは「ひとがた」。これは古から未来にまでつながるもので、研究や展示の核となるものの蓄積やストーリーとなるものは、まだ発展途上の段階にある。人形文化の歴史を、ものを通して実証していくことが博物館の役割であるので、通史的なものを整理していき、そのなかで、持っている人形資料を相対的に見ていく必要がある。館ができてからまだ間もないので、研究や展示の対象として、何をすべきか、何が欠けているかが明らかになっておらず、館に相応しいものを模索する時間も必要であろう。とはいえ、学芸員は展示や普及事業等さまざまな仕事を掛け持ちしており、そのようなことを考える人が足りない状況のようである。もう一人学芸員がいれば、知識の肉付けや整理ができて、研究や展示等も良い方向に回っていくのではないか。

委員長 意見等も出尽くしたので、議事①について、終了とする。

## 議事② 令和4年度の事業計画（案）について

事務局から資料について説明

委員長 説明を聞いて、技術史・産業史の観点からの特別展は、館に相応しく、必要だと思う。また、ワークショップの「にんラボ」は子供だけでなく、大人も対象にして良い内容である。事業計画（案）について、各委員の意見をお願いしたい。

委員 特別展について、さいたま市だけでなく、越谷や所沢等を含めて、もう少し広い地域

- で捉えた方が良いのではないか。
- 事務局 関連する県内の地域（鴻巣等）については触れていく予定だが、あくまでも産業データ等が揃っているさいたま市を中心に考えている。
- 委員 展示に関しては、面白いと思う。特別展については、市の産業史も大切だが、あまりローカルになりすぎても独りよがりなものになるので、全国の中での位置づけも忘れてはならない。博学連携を強く出すのは良いと思う。
- 委員 博物館や企画展の魅力を伝えていくには、まずは、その魅力やセールスポイントが何かを把握して、その点に絞ってアピールすることが重要だと思う。
- 委員 博物館・美術館の誘引には、ポスターのデザインが重要な役割を担っている。興味を引くものをピックアップして、館独自の特徴付けを行い、他館との差別化を図っていくことが大切である。キャッチフレーズも重要になってくる。
- 委員 3月に開催された企画展「天野家の雛祭り」は、人形のある暮らしや当時の生活の様子がわかり、たいへん良い展覧会だった。企画展は何にフォーカスするのかを明確にすれば、地元の事業者も連携しやすくなり、事業者の方から連携の声が上がってくるのではないか。
- 委員 特別展に関して、岩槻の人形職人の仕事は、全国に広がっているので、わざわざ全国の職人技を取り上げなくても、岩槻の紹介だけで、十分意味があるものになるのではないか。
- 委員 人形の小道具のみを取り上げた企画展も面白いのではないか。小道具に関しては、岩槻で全国の9割ほどを生産しており、手に何を持っているのか等を知ることが、人形文化の継承につながると思う。
- 委員長 意見等も出尽くしたので、議事②について原案のとおり承認とし、終了とする。  
以上で議事はすべて終了とする。

## 1 展示事業

### (1) 令和3年度事業スケジュール

展覧会スケジュール	2021年																		
	令和2年度						令和3年度												
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月				
展覧会スケジュール			3/23(水)~5/5(水・祝) 【39日間】 春の企画展 【開館1周年】 「天野家の雛祭り」				7/17(土)~8/29(日) 【44日間】 企画展 【御所人形】 「御所人形」					10/9(土)~11/28(日) 【44日間】 特別展 【西原家】 「一人形あひだり会へ」				1/29(土)~3/27(土・日) 【45日間】 企画展 【雛祭り展(仮)】			
常設展催し物			3/29(水)~6/10(水) 「天野家の雛祭り」 「天野家の雛祭り」 「天野家の雛祭り」																
外景ツアー																			

### (2) 令和3年度前半期の事業報告

令和3年度前半もコロナ禍による影響を受け、企画展の会期変更、催し物の中止とスケジュール変更があったが、企画展2本を開催した。来館者の総数は48,346名(令和3年6月末まで)に達した。

#### ①開館一周年記念企画展「天野家の雛祭り一人形が彩る商家の暮らし」

会期：令和3年3月23日(火)～5月5日(水・祝)  
緊急事態宣言とその延長を受け、会期が当初の1月30日からずれこむとともに、各イベントは中止となった。[39日間、来館者数 5,309人]

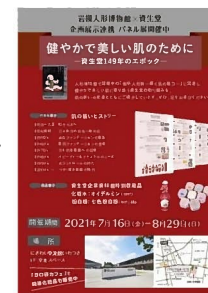
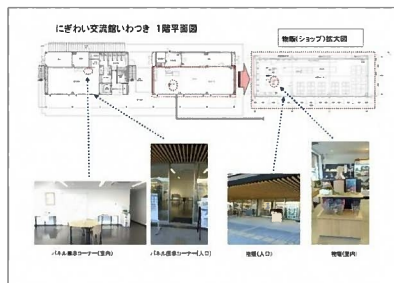
#### ②企画展「御所人形一輝く肌の魅力」

会期：令和3年7月17日(土)～8月29日(日)  
関連行事：講演会「白の美意識—江戸美人の流行通信」  
日時：8月1日(日)午後2時～午後3時30分  
講師：村田孝子氏(美容考古学研究所所長・元ポーラ文化研究所シニア研究員)

### (3) にぎわい交流館いわかきとの連携



ヘチマコロン社との連携



資生堂企業資料館との連携



地元化粧品店・理容店との連携

## 2 教育普及事業

### (1) 博学連携(学校見学)

現在までに対応した小学校は以下の通り。(職員とボランティア3名で対応)

令和3年4月から7月までの校外学習実績

No	日時	学校名	児童・生徒数(名)	引率者数(名)	合計(名)
1	6月3日	与野南小学校	49	5	54
2	6月17日	田島小学校	82	5	87
3	6月18日	宮原小学校	175	8	183
4	6月23日	片柳小学校	79	5	84
5	6月25日	慈恩寺小学校	52	5	57
6	7月7日	西原中学校	105	8	113
(合計)			542	36	578

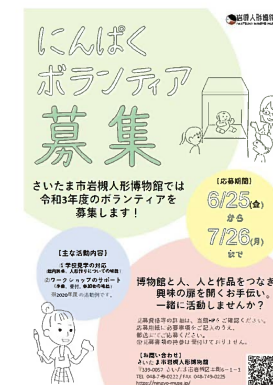
### (2) ボランティア構築

現在、ボランティア募集を行っている。

7月末に募集を締め切り、8月に面接、採用し、9月から研修を実施して活動をスタートする予定。



人形作りの映像視聴の解説補助の様子



ボランティア募集のちらし

## 1 展示事業

### (1) 令和3年度 展覧会（後半期）

#### ① 特別展「西澤笛畝一人形をひのき舞台へ」

会期:令和3年10月9(土)~11月28日(日)

担当:主 菅原千華/副 岩田明日香

概要:当館の人形を収集した西澤笛畝(1889-1965)の足跡を紹介する展覧会。生涯を通じ、日本画家と人形玩具研究家の二足の草鞋を履いた笛畝は、巧みに相互を利用し合い、社会的地位を築いた。その立場を活かして、昭和初期の人形芸術運動を先導し、視野を世界に広げて、日本人形の魅力を世界に発信しようと努力した。趣味の対象であった人形を、文化・芸術の表舞台に引き揚げようと努力したのである。本展では、笛畝による日本画作品や人形玩具絵、書誌資料、コレクションを通じ、その人物像と業績を振り返る。

関連行事:①講演会 講師:濱田琢司氏(関西学院大学教授)

②講座 講師:担当学芸員

③ワークショップ 講師:佐々木一澄氏(イラストレーター)

④展示解説

刊行物:図録(A4 96ページ、価格未定)



西澤笛畝「松竹梅」東京国立近代美術館蔵

#### ② 企画展「雛祭り展(仮)」

会期:令和4年1月29日(土)~3月21日(月・祝)

担当:主 蟹沢真弓/副 平井美江

概要:館蔵品のなから、近代に作られた創作人形作家による雛人形や絵画に描かれた雛人形等を中心に紹介する。人形では雛人形も多く手掛けた野口光彦をはじめ、白澤会のメンバーの手による雛人形や様々な人形を展示し、絵画では西澤笛畝や清水晴風のほか、おもちゃ絵等も含めて展示する。



野口光彦「稚児雛十五人揃」

関連行事:①講演会、②ワークショップ、③展示解説

刊行物:パンフレット(A4・8ページ程度、無償頒布予定)

### (2) にぎわい交流館いわつきとの連携(特別展関連イベント)

#### ① 岩槻人形博物館 令和3年11月6日(土)

特別展の関連イベントとして、西澤笛畝の影響を受けたイラストレーター佐々木一澄氏による「おもちゃ絵の世界」を、トークとワークショップにより今の人に伝えていく。

※ワークショップ

佐々木氏の描いた当館コレクションをモチーフとして、シルクスクリーンを用いたトートバッグを製作



#### ② にぎわい交流館いわつき 令和3年10月9日(土)~11月28日(日)

佐々木氏の集めた、若しくは作成したイラストをポスター・パネルにて交流・休憩ルームで紹介。

また、絵ハガキやグッズをヨロ研カフェで販売予定。

※そのほか、地域のカフェや図書館との連携も予定。



## 2 教育普及事業

令和3年度もコロナの状況を見ながらの実施となるが以下のワークショップを予定している。

### (1) 実験体験型ワークショップ にんらぼ 胡粉編

昨年度実施した桐壱編の続編。伝統的な人形には欠かすことができない「胡粉」とは何かを知り、触れ、扱ってみる講座。

日時:令和3年8月7日(土)午後2時~15時30分

講師:桐原瑛奈氏(文化財修復技術者)

参加費:200円

対象:小学3~6年生

定員:16名

### (2) 犬宮・ふじ雛などの絵付け体験ワークショップ

岩槻や越谷など埼玉県東部地域は、ダルマなど張子の生産地としても知られてきた。その張子の技法を現在風にアレンジした紙工芸で犬宮やふじ雛など岩槻人形博物館オリジナルの生地を準備し、これに絵付けをする。本年度は御殿玩具の福良雀を作成する。

### (3) 展覧会・常設展示に関連したワークショップ

展覧会や常設展の関連行事としてのワークショップの頻度をできるだけ高めていく。

### (4) その他

昨年度コロナの状況で、延期になったワークショップを、本年度開催する。



犬宮の見本



ふじ雛の見本

## 3 広報・プロモーションの実施

東京2020大会が無観客となったが、秋の特別展をメインとした広報・プロモーションを実施する。

項目	予定内容
交通広告等	大宮駅・上野駅・池袋駅での動画等を活用した広告等
WEB広告等	旅行メディアaumo への体験記事の掲載
SNS投稿	公式SNS (Instagram) の立上げ支援等
その他	旅行・教育関連の企業・団体向けPR動画の製作 等

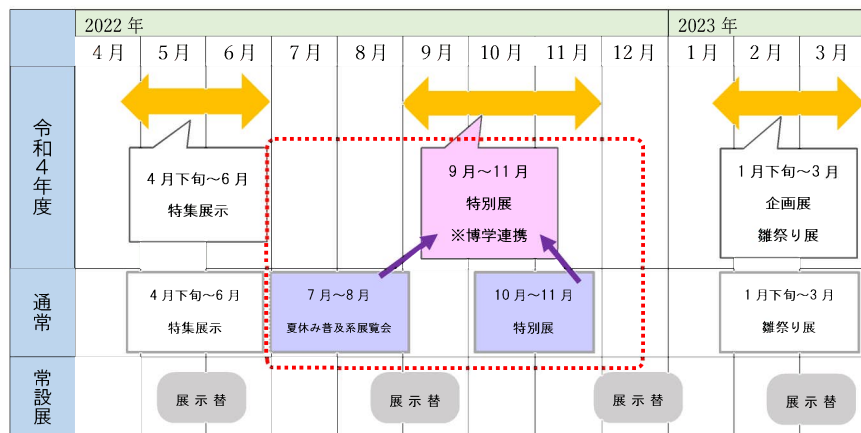
関東、特に埼玉県内を主なエリアとして実施

## 1 展示事業

### (1) 展示事業についての考え方 (通常)

時期	ゴールデンウィーク	夏	秋	春
種別	特集展示	企画展(普及系)	特別展	企画展(雛祭り)
概要	企画展より規模を小さく、展示室3の一部でテーマに沿った人形資料等の展示を行う。	夏休みに合わせ、普及に重きをおいた展示を行う。	他館からも資料借用等をし、幅広いテーマで人形文化を普及できる展示を行う。	雛祭りの時期に、館蔵の雛人形をメインとした展示を行う。
印刷物		・ポスター ・チラシ ・パンフレット(無償頒布)	・ポスター ・チラシ ・特別展用チケット ・図録(販売)	・ポスター ・チラシ ・パンフレット(無償頒布)
備考		・岩槻まつり	・やまぶきまつり ・人形供養祭・岩槻鷹狩行列	・まちかど雛めぐり(大雛段飾り、ひな市、流しびな)

### (2) 令和4年度展示スケジュール



※ 統合する理由

- ◆ 令和4年度の特別展は、さいたまに伝わる伝統的な人形作りの技や歴史をテーマとしている。本テーマは、小学校の授業に関連するため、夏休みの自主学習より、校外学習で授業の一環として取り上げてもらうことで、人形文化への理解を一層高めることができるため、夏の普及系の展示と統合し、多くの学校が見学に来る9月から11月の期間に開催する。

### (3) 令和4年度 展覧会の概要

#### ① 特集展示「おももり・縁起物(仮)」

会期：令和4年4月下旬～6月上旬

担当：菅原千華

概要：世の中は御朱印ブームである。いろいろな困難もある時勢だからこそ、気軽に求めることができる、縁起のよいアイテムが人気を集めているのかもしれない。日本全国で作られた郷土玩具のなかから、寺社から出されたおももりや、可愛い縁起物を紹介する。展示室3の半分ほどを使用予定。

関連行事：未定

刊行物：無し

#### ② 特別展「人形作り、いろはの“い”～後世に伝えたい桐壱の技～(仮)」

会期：令和4年9月上旬～11月下旬

担当：平井美江・岩田明日香

概要：さいたまに伝わる伝統的な人形作りの技や歴史を紹介するとともに、関連イベント等で人形作りを体験・体感することを通じて、地域の文化への理解を深める機会とする。子供向け解説パネルやワークシート等を作成し、学校見学への対応、小中学生にもわかりやすい展示を目指す。また、当館ボランティア(にんぼへら)による解説やイベントなどを実施し、ボランティア活動の成果を発揮する場とする。

※博学連携については「2 教育普及事業」を参照。

関連行事：講演会、ワークショップ(にんらボ特別編)、ボランティアによる展示解説

職人トークショー(仮)

刊行物：展覧会図録 A4・72ページ程度(有償頒布)、ワークシート A3・8ページ(無償頒布)

#### 【特別展についての考え方】

令和2年度「こどものかたち—創作人形の力展」：創作人形作家の作品、芸術作品としての人形

令和3年度「西澤笛敵一人形をひのき舞台へ」：当館コレクションを収集した西澤笛敵の紹介

令和4年度「人形作り、いろはの“い”(仮)」：人形作りの技、地域の人形産業

→人形や人形に関するテーマについて、調査研究に基づいた展示を行い、図録等を発行する。

#### ③ 企画展「思い出の雛祭り展(仮)」

会期：令和5年1月下旬～3月中旬

担当：菅原千華・蟹沢真弓

概要：当館が開館して4回目の雛祭りに開催する本展では、当館に寄贈された雛人形を一堂に展示する。

開館準備期間から開館後3年間で多くの方からの寄贈を受けたが、これらは、寄贈者が思い出とともに大切に伝えてきたものである。家に飾られていた頃の様子や家族の思い出、伝来のエピソードを合わせて紹介したい。

関連行事：ワークショップ

刊行物：A4・8ページパンフレット(無償配布)

## 2 教育普及事業

### (1) 博学連携(学校団体見学)

今年度と同様、コロナ対策で常設展示室1において地域の製作工程がわかる見学案内ができないことが見込まれるため、引き続き会議室で人形製作映像の視聴、質疑応答、クイズを出すなどして対応する。

常設展示室2、企画展示室では感染症対策を行いながら、ワークシートを活用した鑑賞も展開しており、さらにシートを充実していく。

### (2) ボランティア

令和4年度もボランティア募集を行い、人数増を目指す。定期的に研修を実施し、学校団体見学時の会議室における映像視聴の案内、解説やワークショップの準備、当日の補助等を行う。

### (3) ワークショップ

令和4年度もコロナの状況を見ながらの実施となるが、引き続き以下のワークショップを行っていく。

#### ① 実験体験型ワークショップ にんラボ 特別展編

なかのヒミツと題した「桐塑編」やはだのヒミツ「胡粉編」など、人形製作の材料を知り、触れ、五感を使い学ぶ講座。

#### ② 犬笛・ふじ雛、御殿玩具などの絵付け体験ワークショップ

岩槻や越谷など埼玉県東部地域はダルマなど張り子の生産地としても知られてきた。その張り子の技法を現在風にアレンジした紙工芸で当館所蔵の犬笛やふじ雛や御殿玩具の生地を作り、これに絵付けをしてオリジナルを作る。来年度は御殿玩具の福良雀型に絵付けをし、中に鈴を入れて仕上げる。

#### ③ 展覧会・常設展示に関連したワークショップ

展覧会や常設展の関連行事としてのワークショップの頻度をできるだけ上げていく。

特に、ボランティアの方々の発表の場としても、特別展の関連ワークショップを充実させたい。



左上：にんラボ・胡粉研修の様子

右上：胡粉を膠で溶いている様子

右下：ふじ雛の型



## 3 広報・プロモーションの実施

### (1) 趣旨

人形のまち岩槻において、地域資源である人形文化の振興を図るための拠点施設としての岩槻人形博物館では、令和4年度は年間来館者数を7.4万人(目標)と設定している。

コロナ禍にあつて幅広い層の来館者はあつたが、県内からの来館者が多数を占めた。今後もしばらく同様の環境が続くことが想定されることから、関東圏シニア女性の取り込みを図りつつ、来館動機の醸成およびアプローチタイミングの柔軟性に配慮した、広報・プロモーションを引き続き実施する。

### (2) プロモーションの実施

令和4年度も特別展をメインとした広報・プロモーションを実施する。

項目	想定内容
交通広告等	車内、駅での動画等を活用した広告等
WEB広告等	WEBやSNSなどを活用した広告等
SNS投稿	公式SNS (Instagram) の運用等
その他	訪日外国人向け 等

関東、特に埼玉県内を主なエリアとして実施

## 4 地域との連携

### (1) 継続

- 「株式会社東横インとの提携」
- 「岩槻人形博物館」「にぎわい交流館いわつき」「いわつきポイントカード事業協同組合」相互割引

### (2) 特別展期間

- 「着物で岩槻」

### (3) その他

- 当館展覧会との連携した「にぎわい交流館いわつき」での連携イベント。パネル展など。
- 岩槻図書館との連携。
- 岩槻駅の周辺事業に関わる庁内5部署と連携し、地域のイベントと連動。  
※駅前クレセントモールでの岩槻マルシェとの連携。